

## 今日のキーワード 「AI」で第4次産業革命（日本）

「AI」は英語のArtificial Intelligenceの略で、人工知能と訳されています。1950年代から世界的に研究が進められていますが、コンピュータの進歩により、囲碁やチェスなどのゲーム分野では、「AI」は人間を超えるレベルにまで発達しつつあります。日本でも安倍政権が今年5月に新たな成長戦略として、「AI」やロボットを積極的に活用した「第4次産業革命」を推進することで、社会の変革と産業構造の転換を図ろうとしています。

### ポイント1

#### 既に「AI」は幅広い分野で活躍中

##### 普通の人から、熟練工・専門家レベルに躍進

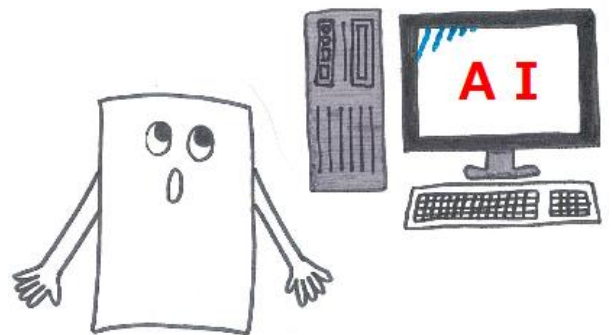
- 「AI」を活用したサービスはすでに幅広い分野で実用化されています。携帯電話やスマホでの音声認識、機械的な言語の翻訳機能、自動車の自動運転、音楽の作曲支援などです。これらの「AI」のサービスは、いわば普通の人ならできるレベルのものです。
- 最近では、「AI」はさらに進歩し、人間でいえば高い技能レベルを持つ熟練工・専門家レベルの機能を有しています。例えば鉄鋼業では高炉の監視・操業、医療ではX線写真の画像診断支援、インターネットショッピングでは商品のレコメンド機能、金融では投資アドバイスや融資の決定支援、などがあげられます。

### ポイント2

#### 「AI」は新たなステージに突入

##### ディープラーニングとビッグデータがカギ

- 「AI」の進化の背景は、一つには「AI」自体が、人工知能アルゴリズム「ディープラーニング（人間の神経構造を模した学習）」の開発により進歩したことがあげられます。次に「AI」が判断を学習するための膨大なデータ（ビッグデータ）が、通信技術やインターネットにより入手可能になったことも指摘されます。
- さらには、クラウド（データを自分のPCや携帯端末ではなくインターネット上で保存や使用すること）の普及により、「AI」の計算環境が飛躍的に整備されたことも大きなポイントです。



### 今後の展開

#### 市場規模は急拡大、現在の3.8兆円から2020年には23兆円へ

- シンクタンクのEY総合研究所の予想によれば、2015年のAI活用機器・システムの国内市場規模は、卸・小売業、広告、金融などを中心に3.8兆円と試算されています。今後は技術の成熟、安全性向上、コスト削減などが進行し、運輸・製造・生活関連等の産業分野での市場形成が進行し、市場規模は2020年に23兆円強、2030年には約87兆円へと急拡大する見通しです。こうした成長を背景に、社会の変革と産業構造の転換が図られることが期待されます。

### ここもチェック!

2016年 7月 11日 「参議院選挙」の結果の読み方（日本）

2016年 7月 4日 クルマの「自動運転」は今後どうなる？（日本）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。